

毫モ水害ノ他人ノ家ニ及フナキヲ敢テ實際ノ場合ナシトナス可ラ  
ス若シ此場合アルニ當リ之ヲ以テ直ニ重罪ノ刑ナル重懲役ヲ科ス  
ルトセハ之ヲ放火ノ場合即チ第四百七條ニ比照シテ甚タ不權衡ナ  
ル結果ヲ生セン但第一項ト第二項トハ文章ニ於テ毫モ異ナルヲナ  
キニ斯ノ如ク區別シテ解釋スルハ當チ得サルカ如シト雖モ佛文章  
案ニ依テ之ヲ觀レハ故サラニ之ヲ區別セリ即チ其第四百五十六條  
ハ本條第一項ニ當ル條ニシテ自己ノ所有タルト他人ノ所有タルト  
ヲ問ハスノ明文アリ同第四百五十七條ハ本條第二項ニ當ル條ニシ  
テ他人ノ所有タル時ニ限りタリ是レ以テ本條ノ精神ヲ推知スヘキ  
ナリ

第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ田圃礦  
坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス

本條ハ前條ニ比スレハ其刑輕シ其刑ノ輕重アル所以ハ害ヲ受クル  
所ノ目的物ニ關スルモノナリ

田圃礦坑牧場等ノ等ノ字ハ我刑法中往々見ル所ナリ立法者ノ如斯  
文字ヲ用フルハ甚タ稀ナリ是レ此文字ハ其意味廣漠ニシテ區域定  
マテサルニ因リ如何ナル場合ヲモ包含セシムルヲ得可クシテ法意  
外ノ適用ヲ爲スカ如キ害アレハナリ然レモ之ヲ用ヒサル時ハ其場  
合チ一々列舉セサル可カラズ之ヲ列舉スル時ハ脫漏ナキヲ保シ難  
キヲ以テ止ムヲ得ス斯ノ如キ文字ヲ用ヒタルモノナレハ本條ヲ適  
用スルニ當テハ勉メテ注意ヲ加ヘ法意ノ如何ヲ探ラサル可カラズ  
而シテ此等ノ文字中ニ包含スルモノハ本條ニ所謂田圃礦坑牧場ニ類  
似シタルモノニ限ル可キモノトス

第四百十三條 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ

(第四百十二條)(第四百十三條)

圖ル爲メ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ防  
害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二  
圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ別ニ解釋ニ苦シムモノナシト雖モ亦疑問ナキニ非ス其然ル  
所以ノモノハ本條ハ前二條ノ如ク適用ノ少ナキモノニ非サレハナ  
リ少シク早魃ノ年ニ遇ハ、農夫ハ灌水ノ爲メ爭論ヲ起スモノ滔々  
皆然リ而シテ此爭論ノ結果ハ遂ニ本條ノ問題ニ係ラサルモノハ稀  
ナリトスコレ本條ニ疑問ヲ生スルコト多キ所以ナリ  
本條ニハ他人ノ便益ヲ損スル乎自己ノ便益ヲ圖ル乎二中一アルヲ  
要ス若シ堤防ヲ決潰シ或ハ水閘ヲ毀壞スルノミニテ損害ヲ醸スノ  
點ナキ時ハ如何此場合ニ於テハ建造物等ヲ毀棄シタルモノニ問フ

可キ乎人ノ建造物ヲ毀棄シタルモノトスル時ハ第四百十七條以下  
ニ問ハサル可ラス第四百十七條以下ハ其刑甚タ輕シ其解釋ノ如何  
ニ因テ如此刑ノ輕重ヲ生スルカ故ニ裁判官タルモノハ注意シテ之  
ヲ解釋セサル可ラス今ノ場合ハ果シテ第四百十七條以下ニ問フ可  
キヤト云フニ之ヲ決スル本條ノ其他ノ水利ヲ妨害シタル云々ヲ推  
究スルヲ要フ此語タル方法ノ如何ヲ問ハス水利ヲ妨害シタルヲ云  
フモノナリ今其レ水閘ヲ破リ隄防ヲ決スルノ當時差シタル害ヲ來  
サ、ルモ一夜ノ大雨ニシテ倏忽水量ヲ増シ爲メニ大害ノ來ルコト  
キヲ保シ難シ如此危險アルニモ拘ハラヌ猶ホ本條ニ問フコト能ハサ  
ル乎元來本條ノ目的タルヤ水利ヲ妨害シタルノ所爲ニ在レハ未ダ  
水利妨害ノ實アラサル今ノ場合ハ之ヲ本條ニ當ツルコト許サレサ  
ルカ如シト雖モ能ク其精神ヲ推究セハ水害ニ付キ規定シタル本條

(第四百十三條)

ニシテ今ノ場合ノ此ニ入ラスト云フコトナシ何トナレハ當時ハ未ダ  
其害ヲ見サルモ瞬時ナラスシテ大害ノ來ルヤモ圖ラレサル程危険  
ナルモノナルカ故ニ本條ノ所謂其他水利ヲ妨害シタル云々中ニ合  
蓄シタルモノト爲サ、ル可カラサルナリ

第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火  
ノ例ニ照シテ處斷ス

本條別ニ解説ヲ要ス可キモノナシ

### 第九節 船舶ヲ覆没スル罪

此節ニ記載セル罪タル其危険ナルコトハ實ニ洪水或ハ放火ト同一ナ  
ルモノナリコレ前二節ニ次テ爰ニ記載シタル所以歟  
本節ノ罪ハ前既ニ見タル所ノ往來通信ヲ妨害スル罪ト混淆セサル

ヲ要ス彼ノ往來通信ヲ妨害スル罪ハ例ヘハ燈明臺ヲ破毀スルヨリ  
シテ航海者其針路ヲ誤リ爲メニ其船ノ覆没スルカ如ク一般ニ關ス  
ル所ノモノナルヲ以テ第二編中ニ記載シタルモノナリ而シテ本節ノ  
罪タル決シテ一般ノ利害ニ關スルモノニ非ス特定シタル船舶ニ關  
スルモノトス之ヲ再言スレハ往來通信ヲ妨害スル罪ハ往來ヲ目的  
トシテ定メ本節ハ船舶ヲ目的トシテ定メタルモノナリ

第四百十五條 衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載シタ  
ル船舶ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ處ス但船中死亡ナ  
キ時ハ無期徒刑ニ處ス

衝突トハ故意ヲ以テ其船ヲ衝クヲ云フ其他、所爲云々トハ覆没セ  
シメントスル船ニ穴ヲ鑿ツカ或ハ水雷火ヲ用ユル等種々ノ手段ヲ

(第四百十四條)(第四百十五條)

云フ

七百九十二

本條ノ船舶ハ自分ノ所有タルト他人ノ所有タルヲ問ハス自己ヲ除ク以外ノ人ヲ乗載シタル者ハ皆含蓄ス  
覆没トハ船其モノ、形ヲ失フヲ云フモノナリ然ラハ之ヲ覆没セシメスシテ淺灘ニ乗掛ケタル場合ハ如何ニ處分セン乎此時ニハ其船舶ヲ引キ下ロシテ再ヒ浮ハシムルヲ得ヘク又乗込人カ魚腹ニ葬ラル、等ノ患モナシ故ニ本條ヲ以テ罰セサル可ラサルノ必要ハ毫モ之レ無キカ如シ然レ其危害亦本條ノ下ニ出テサル場合ナシトナサス今其レ大洋中ノ淺灘ニ乘リ上ケ自分ノ短艇ヲ下タシテ逃レ去ラハ此ニ止メラレタルモノハ日ニ其死ヲ俟ツヨリ外ナカル可シ由是觀之本條ニ覆没ノ字ヲ用サタルハ寛ニ過クルナキヤノ感アリ

#### 第四百十六條

前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載セサル船

船ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ス

本條ハ其船舶自己ノ所有ニ屬スルト他人ノ所有ニ屬スルトヲ區別シ自己ノ所有ニ係ル時ハ罪トナラス放火ノ如キハ他ニ延焼スルノ危険アルニ因リ其放火シタル家屋ノ自己ノ所有ニ係ル時ト雖モ罪アリトス船舶ハ之ヲ覆没スルモ他ニ波及スルノ危険ナキニ因リ自己ノ所有ニ係ル時ハ罪トナラサルナリ法文上ニ自己ノ所有タルト他人ノ所有タルトノ區別ナシト雖モ危険ノ大ナル放火ノ時スラ自己ノ家屋ニ係ル時ハ重禁錮ナルニ危険ノ小ナル船舶覆没ノ時輕懲役ト爲スハ太タ權衡ヲ失スルノ點ヨリ觀レハ法律ノ意ハ蓋シ自己ノ船舶ニ係ル時ハ之ヲ罪トシ論セサルヲ知ル可キナリ是ヲ以テ自己ノ船舶中ニ他人ノ所有物ヲ乗載セテ之ヲ覆没シタル如キ第四百

(第四百十六條)

七百九十三

十七條以下ニ依テ處斷スルハ格別本節ヲ以テ罰スル能ハス自己ノ船舶ト雖モ他人ニ抵當典物トナシ或ハ保險ニ付シタルヲナシトセズ之ヲ毀没スルモ罪トナラサルハ法理ト如何アルヘキカ佛文草案ニ依テ見レハ他人ニ屬スル船舶又ハ自己ニ屬スルモ他人ニ屬スル物品ヲ乘載シ若クハ抵當典物トナシ又ハ海上保險ニ付シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ストノ明文アリシガ審査ノ際之ヲ削除シタルハ甚タ惜ム可キト云ハサルヲ得ス

(第七十六回)

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

本節ニ記スルモノハ他人ノ所有ニ關スル物件ヲ破毀スルニ係ル罪

ニシテ前三節ト其趣ヲ同フス但ダ前三節ハ放火決水船舶ヲ覆没スル等々其方方ヲ指シ示シタルモノナリ而シテ其結果タル遂ニ人命ニモ關係スルニ至ルヲ以テ特別ニ規定セルモ本節ハ其方法ノ如何ヲ問ハス各本條ノ條件ヲ充タスニ於テハ條件毀壞ノ罪トシテ罰セラル

第四百十七條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

本條以下ノ罪ハ其性質皆同シト雖モ毀壞損傷ヲ受クル物件ノ緊要 (第四百十七條)

ナルト否トニ從ヒ刑ノ輕重各同シカラズ

本條第一項ノ罪ヲ構成スル左ノ三條件アルヲ要ス

第一 家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタルヲ

第二 其毀壞シタル物件他人ノ所有ニ係ルヲ

第三 其之ヲ毀壞スルニ惡意ヲ以テスルヲ

第一ノ條件中ナル家屋其他ノ建造物トハ家或ハ家ニ非ルモ不動産ナル建造物ヲ云フ但シ種梁ハ此中ニ入ラサル可シ何トナレハ種梁ハ往來通信ヲ妨害スル罪中ニ入ル可キモノニシテ第六十二條ナル正文アリ然ラハ則チ爰ニ所謂建造物ハ他ニ正條ナキモノニ限レルヲ知ル可シ

毀壞ハ其毀損ノ大小ヲ問フモノニ非ス故ニ物件全部ヲ毀壞スルト其一部分ナルトニ關セサルナリ然レモ一枚ノ障子數尺ノ壁ヲ破フル

モノ皆本條ニ入ルト云フ可ラス何トナレハ是等ヲ毀壞スルト雖モ其建造物ノ建造物タル所以ヲ害セサレハナリ故ニ是等ハ則チ第四百廿一條ニ入ル可キモノトス

第二條件毀壞シタル物件他人ノ所有ナルヲ他人ノ所有ニ屬スル物件ナル以上ハ人ノ住居スルモノナルト否トヲ分タサルナリ其此條件アル所以ノモノハ若シ自分ノ所有ニ係ルモノナラハコレ自分カ權利ヲ行ヘルモノニシテ法律ニ背クノ點毫モナケレハナリ

第三條件之ヲ毀壞スルニ惡意ヲ以テスルヲ爰ニ故意ト云ハスシテ故ラニ惡意ト云ヒシハ敢テ偶然ニ非ス故意トハ其事ヲ爲サントスルノ意ヲ以テ行フ所ノモノニシテ偶然或ハ過失ト相對スルノ字ナリ故ニ匠夫カ家主ノ囑託ヲ受ケ其家ヲ毀壞スルモ亦之ヲ毀タントスルノ意ヲ以テスルモノ故ニ故意アルモノト謂ハサルヲ得ス因テ

本條ノ罪ノ構成ニハ未タ故意ヲ以テ足レリト爲サズ正ニ惡意即チ他人ヲ害セントスルノ意ヲ以テシタルヲ要ス  
 以上ニ列擧シタル三條件ヲ具備スルニ於テハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加セラル其刑ノ範圍ノ廣キ本條ノ如キモノハ我刑法中他ニ見サル所トス其主刑ノ如キハ殆ト禁錮ノ最短期ヨリシテ最長期ニ迄テ達シタリ如此ナル所以ノモノハ本條ノ罪タル其適用實ニ廣ケレハナリ語ヲ換テ之ヲ云ハ、其毀壞ヲ受クル物件ノ區域甚タ廣ケレハナリ  
 夫レ物件ノ貴重ナル人ノ性命ニ次クカ如キモノモアル可ク或ハ被害者ノ殆ト痛痒ヲ感セサルカ如キモノモアル可シ其物件ノ貴重ニシテ被害者害ヲ蒙ルルノ大ナルト否トニ從ヒ刑ニ輕重ノ差別アルハ至當ノ事ナルカ故ニ刑ノ範圍ヲ廣フシ裁判官ヲシテ充分ニ酌量

スルヲ得セシメタルモノトス

第二項ノ因テ人ヲ死傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ストハ未タ嘗テ我刑法上ニ見サル所ノ特例ナリ茲ニ所謂死傷ニ致シタルハ故意アルヲ要スルモノニ非スシテ過失ニ出ツルモ偶然ニ出ツルモ既ニ第一項ノ罪人タル以上ハ其死傷ハ都テ毆打ノ各本條ト輕重ヲ比シ重キニ從テ處斷セラル實ニ特例中ノ尤ナルモノト謂ツ可シ但タ此因テノ字ニ依リ必ス其家ヲ破フルノ意アルヲ要スルニ注目ス可シ佛文刑法草案ニハ假令モ過失ノ場合ナルモ云々ト明記シアリタリキ  
 元來本條ハ其危害大ナルヲ以テ本節ノ起頭ニ記載シタルモノニシテ恰モ人ノ住居シタル家屋ニ放火シタルモノヲ罰スルノ條ト同一意ニ出ツ然リ而ノ放火決水等ノ罪ニハ此第二項ノ文ナシ故ニ放火

(第四百十七條)

決水ノ場合ニ於テ過テ人ヲ殺傷シタリトモ決シテ殴打ノ各條ニ問ハル、モノニ非ス或論者ハ放火決水等ノ場合ハ其刑重キカ故ニ此第二項ノ法文ヲ附スルモ單ニ無要ニ屬ス可ク而ノ本條ニハ其刑輕キヲ以テ特ニ第二項ヲ設ケ過失罪ノ場合モ殴打殺傷ノ例ヲ以テ處斷ス可キヲ特定シタルモノナリト論スレトモ此クノ如ク解釋スル亦不條理ナル論決ヲ與ヘタル可ラサルモノナリ何トナレハ極刑ヲ以テ罰スル程ニ重キ放火罪ニ因テ過テ人ヲ殺シタルモノハ過失殺ニ處セラル、モコレヨリ輕キ重禁錮ヲ以テ處斷セラル、物件毀壞ノ罪ヲ犯スニ因テ人ヲ殺スモノハ殴打致死ノ罪ニ處斷セラル約言スレハ其之ヲ殺スノ方法重キモノハ其刑輕ク方法輕キモノハ其刑却テ重キニ至レハナリ是レ豈法理ノ許ス所ナランヤ故ニ立法者ノ精心ハ第四百二條ノ如キハ因テ人ヲ死傷ニ致スモノ之ヲ罰セサルノ

意ニシテ其之ヲ罰セサルハ該條ニ於テ既ニ包含スルモノナリト爲セシナラン若シ立法者ニシテ第四百二條ヲ犯スニ因テ人ヲ死傷ニ致スモノ亦之ヲ罰スルノ精神ナリトセハ義キニ陳述シタルカ如ク法理ノ決シテ許サ、ル決定ヲ爲サ、ル可ラサルニ至ラントス然リト雖モコレ唯タ立法者ノ精神ヲ推量臆斷シタル迄テノ事ニテ別ニ憑ル可キノ徵アルニ非ス故ニ或ハ立法者ノ精神ノ爰ニ出テサルヤモ圖リ難キ所ナリ若シ立法者ノ精神ヲシテ余カ推測ニ異ナラアラシメハ放火シテ人ヲ殺サントノ意アリシモノモ亦數罪俱發例ニ依ルヲ能ハサラントス何トナレハ過失殺ノ時ニハ數罪俱發トナサスシテ謀殺ノ時ニノミ數罪俱發例ヲ用キントスルカ如キ隨意ノ解釋ハ決シテ爲シ得失ラサル事ナレハナリ因テ放火決水等ノ場合ニ於テ過失ニテ人ヲ殺傷シタル時ハ數罪俱發ノ例ニ依ラサルト等



シク謀故殺毆打等ノ時モ亦數罪俱發例ヲ用ユルコトヲ得サルモノト爲サ、ル可ラス

斯クスル時ハ又他ノ一方ニ於テ不都合ノ場合ヲ生シ實際數罪俱發例ヲ用ササル可ラサルニ至レルモノアリ例ヘハ爰ニ甲アリ乙者ヲ教唆シテ曰ク汝若シ丙者ヲ殺サハ余ハ其報酬トシテ千圓ノ金ヲ與ヘント乙者ハ忽チ慾情ヲ逞フシ乙ヲ殺シテ千圓金ヲ得マク欲シ種々其手段ヲ考ヘテ之ヲ燒殺セント決シ一夜更深ケ人定マルノ後火ヲ丙カ住居ニ放チヌリシカ丙ハ不意ノ災害ニ驚悸シ四肢ヲ焦シ猛煙ニ墮ヒ殆ント死シテ僅カニ脱シ得タリト爲サン此場合ニ於テハ甲乙ノ處分ハ如何ス可キヤ  
甲ハ殺人罪ノ教唆者ニシテ乙ハ其現行者ナリ然レモ元ト甲ハ放火ヲ教唆シタルモノニ非サレハ乙ハ教唆以外ノ事ヲ爲シタリトナシ

之ヲ刑法第百八條ニ照シテ處分シサル可ラス而シテ甲ハ放火ノ教唆者ニ非サレハ同條ニ依リ放火ノ點ニ付キ歸與セラル、ノ責任ナシ而シテ乙而已刑法第四百二條ニ據テ處セラル、モ其謀殺未遂ノ事件ニ付テハ放火罪中ニ包含シタリトナシ以テ數罪俱發ニ問フナクハ甲者ハ之ヲ如何ス可キヤ全ク現行者ナクシテ獨リ教唆者アル、理ナカル可ク大ニ其處斷ニ苦シマサルヲ得ス若シ其レ乙者ヲシテ數罪俱發ノ例ニ服從セシメン乎斯ル不都合ノ生スルコトナク甲者ハ第百八條ノ第三項ニ從テ處斷シ謀殺未遂犯ニ問フコトヲ得可キナリ因テ放火等ノ罪ニ在テモ亦必ス數罪俱發ノ例ヲ用ササル可ラサルモノト思惟ス

然ラハ即チ第四百十七條第二項ノアルハ果シテ何故ナルヤヲ解スルコトヲ得サルナリ一方ヲシテ理論ニ適セシメントセハ一方ニ於テ

(第四百十七條)

隣離スルモノアリ一道ノ弊害ヲ除去セント欲セハ又更ニ他ノ一道ニ群起スルモノアリ余ノ淺學ナル洵トニ之ヲ斷スルニ躊躇セサルヲ得サルナリ故ニ姑ラク疑ヲ存ス

又本項ハ特ニ第四百十七條ニ附シタル特例ニシテ次條以下ニ適用ス可ラサルハ敢テ言フニモ及ハサルモノナレハ第四百十八條以下ノ罪ヲ犯スニ因テ誤テ人ヲ殺傷セルモノハ過失殺傷ニ從テ處分ス可キヲハ勿論ナリトス

第四百十八條 人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ園地ノ裝飾又ハ田圃ノ樊圍牧場ノ柵欄ヲ毀壞シタル者ハ十日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

人ノ家屋ニ屬スル云々コレ皆ナ不動産ノ一部ニ屬スルモノナレハ第四百十七條ノ次ニ記シタルナラン牆壁及ヒ園地ノ裝飾等々一其物件ヲ列記シタリコレ刑ヲ區別セン爲メニ記シタルナリ他ノ罪ヲ犯ス爲メ本條ノ罪ヲ犯シタル時ハ數罪俱發ヲ以テ論ス可キヤ如何例ヘハ竊盜ヲ犯サン爲メ家屋ニ屬スル牆壁ヲ毀壞シタル時ハ竊盜ト毀壞トチニ罪ニ間フ可キヤ否竊盜ノ未遂犯コシテ本條ノ罪ハ成立セズ本條ハ主トシテ他人ノ物件ヲ毀壞シ其人ヲシテ迷惑ヲ受ケシメントノ目的ヨリ出テタル時ノミニシテ他ノ條ヲ犯サントシテ行フタル場合チ云フニ非ス

第四百十九條 人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又

(第四百十八條)(第四百十九條)

ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪ハ之ヲ前條ニ比スレハ其刑重シ其然ル所以ノモノヲ尋スルニ稼穡竹木等ハ皆公衆ノ信用ニ任セタル者ナルカ故ニ本條ノ罪ハ背信ノ罪ノ如キ者ナリ山林田野ニ成長スル植物ハ之ヲ家屋内ニ貯藏スル貨物ニ比スルニ監守ノ寬嚴果シテ如何ソヤ其公衆ノ信ニ任セ監守ノ寬ナルモノヲ毀壞スルニ於テハ之ヲ罰スルノ法ナカル可ラスコレ本條ノ必要ナル所以ナリ然リ而ノ本條ノ罪ト竊盜罪トナル場合トチ混淆ス可ラス本條ノ罪ハ他人ヲ害スルノ意ヲ以テ其物件ノ在ル地ニ就テ毀損スル者ナルヲ要ス故ニ今本條ノ罪ヲ犯サントスルモ人ニ視ラレノヲ怖レ其植物ヲ採テ小蔭ニ至リ之ヲ毀損シタルモノ、如キハ即チ毀損ノ罪ハ第二ノ所爲中ニ入テ業已ニ竊取ル第一ノ所爲アリ故ニ第一ノ所爲ヨリ見ル時ハ即チ毀損ノ所爲ハ

竊盜ノ目的ニ屬スルモノナルニ依リ本條ヲ以テ罰ス可キモノニ非ス法律ヲ實用スルモノハ是等ノ點ニ付キ注意ヲ怠ル可ラサルナリ立法者ハ是等統テ植物ハ未ダ地ヨリ切り離サ、ル場合ヲ想像シタルモノナルヲ知ル可シ若シ之ヲ切り離シタルモノナルニ於テハ第四百廿一條ノ犯罪ニシテ本條ノ罪ヲナス何トナレハ猶ホ地ニ生植スルモノハ器物ト云フ能ハサル可キモ既ニ地ヨリ切り取リタル以上ハ第四百廿一條ノ器物中ニ包含スルモノト謂ハサルヲ得サレハナリ本條ノ犯人ハ俚言ニ所謂野暴ト稱スルモノ是レナリ苟モ田野ノ妨害ヲ爲セル以上ハ其妨害ノ方法ハ固ヨリ之ヲ問ハサル可シ佛蘭西ニ於テ一ノ奇ナル實例ヲ見タリ甲農夫種子ヲ下シテ將ニ嫩芽ヲ發セントスルノ時ニ當リ乙者アリ多シ雜草ノ種子ヲ以テ其田園ニ散蒔セシカ之レカ爲メ雜草苗然遂ニ其良種ヲ害シテ發

(第四百十九條)

育セサラシムルニ至レハ佛蘭西ノ或ル裁判所ハ乙ニ科スルニ我カ  
第四百十九條ト相對スルノ刑ヲ以テシタリ然レハ佛國ノ刑法ニハ  
植物ヲ毀壞シタルモノトアルヲ以テ之ニ處スルハ少シク附會ノ奧  
アルヲ免レスト雖モ我カ本條ニ於テハ植物ヲ毀損シタル者トアル  
カ故ニ惡草ノ種子ヲ散布スルモ亦或ハ種子ノ未タ萌芽セサルニ際  
シ之ヲ蹂躪シテ遂ニ發生ヲ妨害スルモ皆本條ノ中ニ勿合スルモノ  
ト解シテ差支ルノ所ナキナリ

第四百廿條

土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又

ハ移轉シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處  
シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ其己レヲ利スルト他人ヲ害スルトノ目的ニ關セス苟モ故意

ヲ以テ經界ノ票示ヲ毀壞シタルモノハ皆本條ニ入ル即チ惡意ヲ要  
セサルナリ佛文草案ニハ自己ノ土地ヲ擴メンカ爲メニ此罪ヲ犯シ  
タル者ハ其刑ヲ加重シタリキ因ニ云フ世間往々木炭ヲ境界ニ埋メ  
テ以テ後日ノ爭根ヲ豫防スト益シ木炭ハ永久ノ年月ヲ經ルモ決シ  
テ腐敗セサルモノナリト云フ

第四百二十一條

人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ十一日

以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓  
以下ノ罰金ニ處ス

此條ハ前諸條ノ如ク一々其目的物ヲ指示セサルヲ以テ如何ナル物  
件ニモ適應セサルハナシ都テ前諸條ニ記シタル以外ノ物件ニ關ス  
ルモノハ皆本條ヲ以テ處斷ス可シ故ニ前諸條ハ本條ノ例外ト云フ

(第四百二十條)(第四百二十一條)

モ亦不可ナシ

又ハ三圓以上三十圓以下云々此又ハトハ前第四百十八條第四百十九條ト其意ヲ同フスルモノニシテ裁判官ニ與フルニ物件ノ如何ニ關シ自由ニ其刑ヲ酌量スルノ權能ヲ以テシタルナリ是レ本條ハ諸種ノ物件ヲ包含セルヲ以テ也

第四百二十二條

人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月以上

六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰

金ヲ附加ス

牛馬ハ家畜ノ中ニ在リテハ尤モ必要ナルモノニシテ牛馬ノ繁殖スルト否トハ一國ノ榮枯盛衰ニ關スルヲ大ナリ故ニ立法者ハ本條ヲ設ケテ牛馬ニ付テノ特例ヲ擧ケタリ

人ノ牛馬ヲ殺シタルモノハ本條ニ據テ處分セラル、モ若シ之ヲ傷ケタル時即チ其目ヲ刺シ其四肢ヲ折リタル場合ノ如キハ如何佛蘭西ニ於テモ我カ本條ト同一ナル法文アルカ爲メニ頗ル難問ヲ生シタリキ大審院ノ判決例ニ依ルニ佛蘭西古法ニハ人ノ牛馬ヲ害ヒタルモノ云々トアリシヲ援引シテ之ヲ罰シタリコレ蓋シ之ヲ無罪トスルノ不都合ヲ感シタルカ故ナルヘシト雖モ學者ハ大ニ之ヲ攻撃シテ止マサリシ何トナレハ其古法ハ既ニ現行法ノ頒布ニ因テ自然ニ消滅シタルモノナレハナリ

前鑑既ニ佛蘭西ニ在リタルニモ拘ハラヌ我刑法ハ殺シタルノ字ヲ用キテ怪シム所ナシ牛馬ハ強テ器物中ニ入ル、丁能ハサルニ非サル可キモ本條ニ於テ牛馬ノ事ヲ特記シタルカ故ニ既ニ第四百廿一條ニ所謂器物ノ例外トナリシモノナレハ到底第四百廿一條ニハ入

(第四百二十二條)

ル、フ能ハスシテ之ヲ傷ケタルモノハ卒ニ無罪トナサ、ル可ラカ  
ルニ至ラン

第四百二十三條 前條ニ記載シタル以外ノ家畜ヲ殺

シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但被  
害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

本條ニ規定スル家畜ハ之ヲ前條ニ比スルニ緊要的ノ小キモノナル  
ニ以テ刑罰大ニ輕シ加之一條件ヲ附シタリ被害者ノ告訴ヲ待テ其  
罪ヲ論スル者はナリ然レモ實際上ニ於テ假令ヒ前條ノ場合ダリト  
モ大抵ハ被害者ノ告訴ヲ俟テ其罪ヲ論スルノ結果ニ至ル可シ何ト  
ナレハ則チ牛馬ノ殺サル、ヤ被害者ノ之ヲ告發スルナクシテハ其罪  
ノ發覺スルヲ希レナル可キヲ以テナリ佛國ニ於テハ蠶虫ヲ殺シタ

ル者ヲ家畜ヲ殺シタルモノトシテ罰シタルノ裁判例アリ我國ニ於  
テモ此等ハ本條ヲ以テ罰スルヲ得ヘシ

他人ノ家畜自己ノ邸宅ニ入り盜竊ヲ爲シ又ハ植物ヲ荒殘シタル片  
ハ之ヲ殺スモ罪トナラサルカ如何佛國刑法ニ於テハ人ノ家畜ヲ殺  
ス者ヲ畜主ノ所有地ニ於テスルト否トニ因テ其刑ヲ區別セシト雖  
モ我刑法ハ之レカ區別ヲ爲サ、ルニ因リ畜主ノ所有地ノ内外ヲ問  
ハス他人ノ家畜タルヲ知テ之ヲ殺ス者ハ總テ罰ス可キモノトス  
然レモ牛馬等ノ人ニ危難ヲ加フルニ當テ之ヲ避クル爲メ止ムヲ得  
スシテ殺シタル時ハ罪トナラサルナリ

第四百二十四條 人ノ權利義務ニ關スル證書類ヲ毀

棄滅盡シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處  
シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(第四百二十三條)(第四百二十四條)

是レ我刑法第三編最終ノ條ニシテ然カモ尤モ緊要ノ條ナリトス本  
 條ノ犯人タル如何ニ大ナル損害ヲ釀成スルヤモ圖ル難キ所ナルヲ  
 以テナリ故ニ其刑モ亦第四百十七條ノ一等減ニ恰當ス  
 本條冒頭ニ人ノ權利義務ニ關スル証書類云々トアリコレ甚々不可  
 思議ノ事ト謂ハサルヲ得ス本條ニ於テハ人ノ權利ニ關スル証書類  
 ト云ハ、則チ足りナン即チ公債證書其他借金證書ノ類是ナリ若シ  
 人ノ義務ニ關スル證書ヲ破ルモ其人ニ對シテ更ニ損害ヲ釀スノ點  
 アラサル可シ隨テ本條ニ於テ之ヲ罰スルノ必要ナカラン之ヲ他文  
 草案ニ徵スルニ所有權ノ義務又ハ仕拂其他都テノ權利ヲ証スル証  
 書類ト云ヒタリ故ニ草案ニ云フ所ノモノハ他人ヨリ被害者ニ對シ  
 テ義務ヲ証シタル證書ヲ毀棄滅盡シタル場合ヲ想像シタリシナリ  
 敢テ本條ニ云フ如キ權利ト相對スル義務ヲ指シタルニ非ナリキ

此ノ條ニ於テハ  
 証書類ト云フモノ  
 ハ、公債證書  
 借金證書  
 其他ノ權利  
 義務ヲ証スル  
 書類ニ關スル  
 モノトス

毀棄滅盡トハ重モニ有形上毀棄滅盡シタル事ヲ云フ然レモ無形的  
 ニ毀棄滅盡スル亦本條ニ入ラスト謂フコトナシ例ヘハ證書ノ印影ヲ  
 塗抹スルカ如キハ則チ其證書ハ有形ノ儘存在スト雖モ既ニ證書ノ  
 證書タル効力ヲ失ヒタルモノトス何トナレハ印影ノ塗抹ハ其義務  
 ノ消スル證據ナレハナリ故ニ無形的ノ所爲モ亦本條中ニ入ルモノ  
 ナリ然レモ字面上ノ解釋ニテハ之ヲ本條ニ含蓄セシムルコト能ハス  
 ト云フモノアラシカ毀棄ノ棄ノ字ハ其印影ヲ塗抹シテ證書ヲ無効  
 ニ至ラシメタル場合ヲ含ミタリト解スルハ敢テ難キニアラサルナ  
 リ  
 右ノ論ハ佛國ニ於テモ亦起レリ佛國刑法ニハ證書ヲ毀壞ス云々ト  
 云ヒタルモ大審院ハ之ヲ解シテ曰ク毀壞トハ有形的ノ事ヲ云ヒシ  
 モノナリト雖モ無形的ノ所爲亦其結果ヲ同フスルヲ以テ之ヲ毀壞

(第四百二十四條)

トナス可シト字面上ヨリ解釋セハ毀壞ト云フハ難カル可シ我刑法ハ幸ニシテ毀棄トナサス毀棄トナシタルカ故ニ文字上ヨリ解釋スルモ亦佛蘭西ニ於ケル比附援引ノ議ヲ免ル、ヲ得可キナリ  
 若シ竊取若クハ強取シテ之ヲ毀棄滅盡シタルモノハ決シテ本條ニ入ルモノニ非スコレ等ハ竊盜若クハ強盜トシテ處斷セラル可シ其毀棄滅盡ハ強盜ノ結果トナサ、ル可ラス故ニ本條文章ノ用字ハ廣キ意味アルカ如シト雖モ實際ノ適用ハ必ス罕ナル可シ

又本條ハ第二百二條以下官ノ文書ヲ毀棄シタル罪ト相對立スルモノナラハ必ス私文書ニ關セサル可ラス

又本條ハ有意犯ナルヲ以テ偶然爲シタルモノハ包含スルヲナシ我國ニ於テハ未タ其實益ヲ見サル要件アリ本條ニ人ノ權利義務ニ關スル云々トアルヲ以テノ故ニ證書ノ謄本ハ此中ニ入ラスト云フ

モノ是ナリ此事ニ付キ佛蘭西ニ於テ數困難ナル議論ヲ惹キ起セリ我國ニ於テハ公正證書ハ殆ト之レナキノ姿ナルヲ以テ證書ノ謄本ナルモノナク隨テ此論ニ就テノ利益ヲ見ルナリ  
 次ニ必要トスル條件ハ毀棄滅盡スル所ノ證書有効ナルト是ナリ若シ無効ノ證書ナリセハ實害ノ生スルヲナキヲ以テ本條ニ問ハル可キモノニ非ス唯タ爰ニ注意ス可キハ其證書ノ根元ヨリシテ無効ナルモノト取消シ得可キ證書トヲ區別セサル可ラザル事是ナリ取消シ得可キ證書ニ在テハ其取消ヲ請求セサル限りハ有効ナルモノナレハ根源無効ノ證書ナラサルヲ要スルヲ以テ一ノ條件トス  
 又本條ノ權利ヲ証定スル證書ハ有形的ノ利益ニ關スルモノナルヲ要ス即チ財產ニ關スル權利ノ證書ニシテ榮譽等ニ關スル無形的ノ證書ニハ非サルナリ



佛文草案ヲ見ルニ現行法ノ毀棄滅盡ノ語ナクシテ使用シ得可ラサルニ致シタルモノトアリタリキ奇ニシテ盡セサル語ト謂フ可シ  
 今一ノ佛國裁判例ヲ示シテ本日ノ講義ヲ終ヘン人ノ權利ヲ証スル証書ヲ借リテ之ニ返サス其証書ノ所在分明ナラズ又其存在スルヤ否ヤチ分明ニセサル場合アリ或ル裁判所ハ之ヲ判決シテ曰クコレ証書ヲ毀棄スルモノト同一ノ結果ナルヲ以テ証書ヲ毀壞スルノ罪ニ問フ可シト大審院ハ之ヲ破毀シ更ニ判決ヲ下シテ曰ク毀壞証書ト其結果チ同フスルカ故ニ同一ノ罪ニ處スルハ頗ル比附援引ノ嫌アリ然レモ該証書ヲ返サ、ルモノハ即チ之ヲ毀壞シタルカ故ナリトシ之ヲ返サ、ルハコレ毀壞ノ結果ニシテ到底毀壞証書ノ罪チ免レサルナリトセハ可ナリト是レ文字ニ適セサルノ解釋ナルカ如クナレモ我刑法ヲ解釋スルニ方リ亦此ノ如クナサ、ルヘカラス否ラ

サレハ即チ費用受寄財産ヲ以テ罰シ得ヘキ場合ノ外之ヲ罰スルヲ得サルニ至ラン

(第七十七回)

第四編 違警罪

違警罪トハ警察ノ規則ニ違フ罪ナリ警察トハ行政ト司法トノ爲メニ設ケタルモノニ行政ハ禍害ヲ豫防シ司法ハ犯罪ヲ搜索スルモノニテ其結局ハ國ノ安寧幸福ヲ保持増進セシムルニ在リ故ニ行政ノ目的ヲ違スルニハ人ニ或ル所行ヲ命シ又ハ禁スルヲアリ即チ人民ノ幸福ヲ維持スルカ爲メニ之ヲ命シ又ハ禁スルナリ又或ハ圖ラサル禍害ヲ豫防スル爲メ命シ禁スルヲアリ之ニ違フ者ヲ罰スル規則ハ則チ本編ノ任ナリ而シテ此規則ニ違フニハ有意ト無意トチ問ハ

(第四百二十四條)

ス是レ違警罪ノ多ク無意犯タル所以ナリ  
 是ニ由テ觀レハ違警罪ハ社會ノ利益ノ爲メヨリ來リタルモノニテ  
 自然ノ理ヨリ出テタルモノニ非サルナリ斯ク社會ノ利益ヨリ罰ス  
 レハ刑法ノ原則ナル背徳加害ノ主旨ニ背反スルカ如クナレハ決シ  
 テ然ラス曾テ辨セシ如ク凡ソ人ノ社會ニ立ツヤ各務ム可キノ職分  
 アリ例ヘハ人家稠密ノ所ニ於テ失火シ自己ノ家ヲ燒クキハ大ニ他  
 家ニ延燒スルカ如ク僅カノ不注意ヨリ大害ヲ爲スヨアリ故ニ社會  
 チ組織スル以上ハ互ニ注意ニ注意ヲ加フルハ即チ各自ノ職分ナリ  
 然ルニ此危險ヲ防ク警察ノ規則ニ背反スルキハ業已ニ道德ニ反ス  
 ルモノニシテ彼ノ犯罪ヲ罰スル原則ニ背カサルナリ刑法第七十七  
 條ニ罪ヲ犯スノ意ナキ所爲ハ其罪ヲ論セストアリ而シテ其但書ニ法  
 律規則ニ定メタル場合ハ此限ニ在ラストアリ即チ法律ニ定メタル

トハ違警罪ノ如キヲ指スナリ  
 斯ク論シ來レハ違警罪ト雖モ道德ニ背クモノナリ但シ社會ヨリ特  
 ニ設ケタル規則ニ背クノミナルヲ以テ道德ニ反スル點モ亦甚ク輕  
 シ故ニ其刑從テ輕ク拘留科料ニ止マレリ  
 加害即チ社會ヲ害スルノ點ニ至テハ地勢人情氣候等ノ殊別ニ因テ  
 異ナルナリ或ハ同一ナルアリ是レ一般ノ違警罪ト地方違警罪トノ  
 出ツル所以ナリ一般ノ違警罪ハ立法者ニ於テ規定スレハ地方違警  
 罪ニ至テハ其土地ノ慣習等ノ異ナルニ因リ之ヲ定ムル能ハス因テ  
 其立法權ノ一部ヲ割キ之ヲ行政官ニ分與セリ故ニ地方官モ幾分カ  
 立法ノ權ヲ有セリ是ニ由テ考フレハ亦立法者ハ此權ヲ細分シテ郡  
 區區長ニ迄與フルモ可ナリ例ントナレハ禍害ヲ豫防ス可キノ點各  
 地各村皆異ナル所アレハナリ

(第四百二十四條)

第四百二十五條

左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

一規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破烈ス可キ物品ヲ市街ニ運搬シタル者

二規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破烈ス可キ物品又ハ自ラ火ヲ發ス可キ物品ヲ貯藏シタル者

三官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者  
四人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者

五蒸氣器械其他烟筒父竈ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則ニ違背シタル者

六官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セントスル家屋牆壁ノ修理ヲ爲サ、ル者

七官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者

八自己ノ所有地内ニ死屍アルヲ知テ官署ニ申告セス又ハ他所ニ移シタル者

九人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者

十密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者

十一人ノ住居セサル家屋内ニ潜伏シタル者

(第四百二十五條)

十二 定リタル住居ナク平生營生ノ産業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

十三 官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者

十四 違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者但被告人偽證ノ爲メ刑ヲ免カレタル時ハ第二百十九條ノ例ニ從フ

第四百二十六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下科料ニ處ス

一 人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク

者

二 水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦ス可キノ求メテ受ケ傍觀シテ之ヲ肯セサル者

三 不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者

四 健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防規則ニ違背シタル者

五人ノ通行ス可キ場所ニアル危険ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲サル者

六 路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ喉シ又ハ驚逸セシメ

(第四百二十六條)

タル者

- 七發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者
- 八狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放ケタル者
- 九變死人ノ檢視ヲ受スシテ埋葬シタル者
- 十墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シタル者
- 十一神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者
- 十二公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者但訴ヲ待テ其罪ヲ

論ス

第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五

錢以下ノ科料ニ處ス

- 一濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 二制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ引キタル者
- 三夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者
- 四木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者
- 五瓦礫ヲ禽道路家屋園圃ニ投擲シタル者
- 六禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者
- 七汚穢物ヲ道路家屋園圃ニ投擲シタル者

(第四百二十七條)

八警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者

九醫師穩婆事故ナクシテ急病人ノ招キニ應セサル者

十死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬シタル者

十一流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者

十二妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符呪等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者

十三私有地外へ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者

十四官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キ

タル者

十五路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ厠場等ヲ毀損シタル者

十六道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者

第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘

留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

一官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者

二渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ

(第四百二十八條)

八百二十九

取リ又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者

三渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行シタル者

四路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者

五官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者

六溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者

七制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者

八官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放テ又ハ牧畜シタル者

九身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者

十他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者

十一他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者

第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上

五十錢以下ノ科料ニ處ス

一橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者

二牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭

(第四百二十九條)

等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

三車馬ヲ並ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

四水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者

五冰雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者

六官署ノ督促ヲ受テ道路ノ掃除ヲ爲サル者

七制止ヲ肯セスシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害

ヲ爲シタル者

八牛馬ヲ牽キ又ハ繫クヲ忽カセニシテ行人ノ妨

害ヲ爲シタル者

九出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者

十通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者

十一道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ肯セサル者

十二銘酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者

十三路上ノ常燈ヲ消シタル者

十四人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者

十五邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者

十六他人ノ田野園圃ニ於テ菜菓ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折シタル者



十七公園ノ規則ヲ犯シタル者

十八通路ヲキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入  
レタル者

第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜  
ニヨリ定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ其罰則ニ  
從テ處斷ス

以上規定スル所ハ一般ノ違警罪ナリ我國ニハ古來ヨリ此刑アリシ  
ヤ否ヤヲ探クルニ其事實ノアリタルヲハ明カナレモ一々之ヲ罰シ  
タリヤ否ヤハ明了ナラス舊幕時代ニハ命令シタルノミニテ刑ノ制  
裁ヲ設ケタルヲナカリキ即チ市街ニ於テ責馬ヲ禁スルカ如キ或ハ  
夜中無提燈ニテ歩行スルヲ禁スルカ如キ是ナリ維新後ト雖モ亦幕

制ニ倣フニ過キサリシカ明治五年司法省ヨリ東京違式註違條例ナ  
ルモノヲ頒布セリ是レ蓋シ佛國ノ違輕罪ヨリ採リシモノナリ其刑  
違式ハ六錢二厘五毛ヨリ十二錢五厘註違ハ七十五錢ヨリ百五十錢  
ナリ此罰金ヲ納メサル者違式ハ杖笞ニ換ヘ註違ハ拘留ニ換ヘタリ  
キ

明治六年七月ニ至リ第二百五十六號ヲ以テ地方違式註違條例ヲ正  
院(太政官)ヨリ布告セリ

右違式註違條例ヲ以テ明治十四年迄施行セリ

此刑法ノ違刑罪ハ階級ヲ五箇ニ分テリ然レモ罪ノ種類ニ因テ分チ  
タルニ非ス刑ノ輕重ニ基テ之ヲ分チシナリ  
今罪ノ性質ニ付キ分ツキハ左ノ如シ

第一 人ノ身體ニ對シ加害ヲ豫防スルモノ即チ罵詈及ヒ毆打シテ

(第四百三十條)

傷ヲ爲サ、ル者或ハ醫師穩婆故ナク急病人ノ招キニ應ヒサル者等ナリ

第二 所有權ヲ保護スル目的ヨリ出テタルモノ即チ蒸氣器械其他烟筒等ヲ掃除スル規則ニ違背シタル者等ナリ

第三 人身ト所有權トヲ保護スル目的ヨリ出テタルモノ

第四 他ノ犯罪ヲ豫防スル目的ヨリ出テタルモノ即チ人ノ住居セサル家ニ潜伏シ又ハ定リタル住居ナクシテ徘徊スル者

以上四者ノ中有意ト無意トヲ問ハサレモ無意ナレハ罰セサルコトアリ即チ人ヲ毆打シテ傷ヲ爲サ、ルキノ如キ或ハ道路ノ標示ヲ毀損スル如キ是ナリ然リ而シテ無意ナルキ罰スル場合ニ於テモ彼抗拒ス可ラサルコト及ヒ天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可ラサル危難ニ逢フテ爲シタルキハ不論罪ノ條ニ抵觸スルコトナシ

違警罪ノ刑三箇アリ曰ク拘留曰ク科料曰ク沒收是ナリ他國ノ刑法ニ於テハ違警罪中大ニ重キモノアリ是レ我國ニ於テ輕罪ニ適スル罪ヲ違警罪中ニ加入シ其裁判ノ速カナラシメントセシコト因レリ

違警罪ニハ沒收ヲ用ユルコト稀ナレモ亦無キニ非ス而シテ此期滿免除ハ五年ナリ然ルニ拘留科料ハ一ケ年ニテ期滿免除トナル此不權衡ハ蓋シ立法者ノ不注意ヨリ生シタルモノナラン

拘留科料ハ併科スルモノニ非スニケ中ノ一ニ付キ裁判官之ヲ擇ムモノナリ違警罪ハ治安裁判所ニ於テ裁判ス可キ本則トスレモ明治十四年十二月ノ布告ニ三府五港ヲ除クノ外ハ警察官ヲシテ裁判セシムト其後三府五港モ警察官ヲシテ裁判セシムルコトセリ其裁判ノ手續ハ可及的治罪法ニ據ル可シト雖モ己ムヲ得サル時ハ便宜ノ手續ヲ用ユルコトヲ得セシム其裁判ハ控訴上告ヲ爲スコトヲ許サス

トセリ控訴ハ輕罪ニテモ停止スレトモ上告ハ爲ストモ得然ルニ違警罪ハ假令不服ナルモ上告スルヲ得ス

此變例ヲ定メタルカ爲メ刑法第五十一條ヨリ奇怪ナル結果ヲ生セサルニ至レリ即チ刑ハ三日ヲ經テ確定スルモノナリ今一日ノ拘留ニ處セラレタル者アリトセンニ三日ヲ經サレハ執行スル能ハス而シテ刑法第五十一條ニ刑ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ストアルニ因リ宣告ノ日ヨリ起算セントスルモ已ニ其日ヲ過キサリテ執行スル能ハス故ニ刑法ノ正文ニ依レハ三日以下ノ拘留ハ執行スル能ハサル奇怪ノトアリシカ右變例ヲ設ケタル爲メ此事ナキニ至レリ

違警罪モ刑ナルヲ以テ第七十五條ノ如キモ之ヲ適用セサル可ラサレトモ彼ノ十二歳以上ノ者ヲ罰スルコト及ヒ數罪俱發ヲ併科スルコト及ヒ未遂犯ヲ罰セサルコト等ハ異ナレリ

第四百二十條ニ前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニ因リ定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ其罰則ニ從テ處斷ストアリ

此條ノ因テ起ル所以ハ既ニ之ヲ辨セシ如ク立法者ハ一般ノ事ハ規定スルヲ得レトモ特別ノ事迄ハ到底悉ク規定スルヲ得ス何ントナレハ其禁シ或ハ令スル所地勢人情風俗慣習氣候等ニ因テ各異ナラサルヲ得サルモノナルニ立法者ハ之ヲ一々知得スルハ實ニ困難ニシテ能ハサルコトナレハナリ故ニ其權ノ一部ヲ割テ之ヲ地方官ニ讓リ規定セシムルナリ而メ本條ニ各地方ノ定ムル所ノ罰則ニ因テ處斷ストアルヲ見レハ各地方官ハ自ラ勝手ナル刑ヲ定メテ罰スルコトヲ得ル如クナレトモ決シテ然ラス即チ違警罪ノ刑ナル拘留料沒収ノ三種ヨリ他ノ刑ヲ以テ罰スル能ハサルナリ

諸君ヨ 余ハ以上ノ講述ニ因テ完ク刑法全編ヲ講説シ了セリ今此

(第四百三十條)

講壇ヲ退クニ臨テ諸君ニ一言謝セント欲スルモノアリ余ヤ自ラ不  
 學短才ヲ願ミス本校ニ於テ刑法講義ノ重任ヲ受ケ夥多ノ日子ヲ費  
 シ此ニ纒ニ之ヲ終結スルヲ得マリ抑モ此僅々四百數十條ヲ講ス  
 ルニ當リ斯ク夥多ノ日子ヲ費セシ所以ノモノ他ナシ刑法ハ元來人  
 ノ生命自由榮譽權利ニ關係スル貴重ノ法律ナレハ之ヲ解スルモ亦  
 隨テ理論ノ困難ナル所アルニ因レリト雖モ畢竟余ノ不學短才ニシ  
 テ理ヲ見ルニ敏ナラス事ヲ辨スルニ銳ナラサルニ原因スルヨリ外  
 ナラサルナリ而メ其間諸君ヲシテ満足セシムル能ハサルノ義解ア  
 ルニモ拘ハラズ諸君之ヲ厭ハス黽勉聽聞セラル、丁終始一日ノ如  
 クナリシハ實ニ余ノ名譽ニシテ誠歡誠喜ノ至ニ堪ヘス因テ今此講  
 壇ヲ去ルニ臨ミ一言以テ謝辭ヲ呈スルヲ爾リ

日本刑法講義第二卷大尾

(定價金壹圓六十五錢)

明治十七年九月九日版權免許  
 同 十八年一月 出版  
 明治十八年十一月 再版  
 明治十九年十一月 三版  
 明治二十年五月 四版

講述

山形縣士族 宮城

越前區上二番地

出版

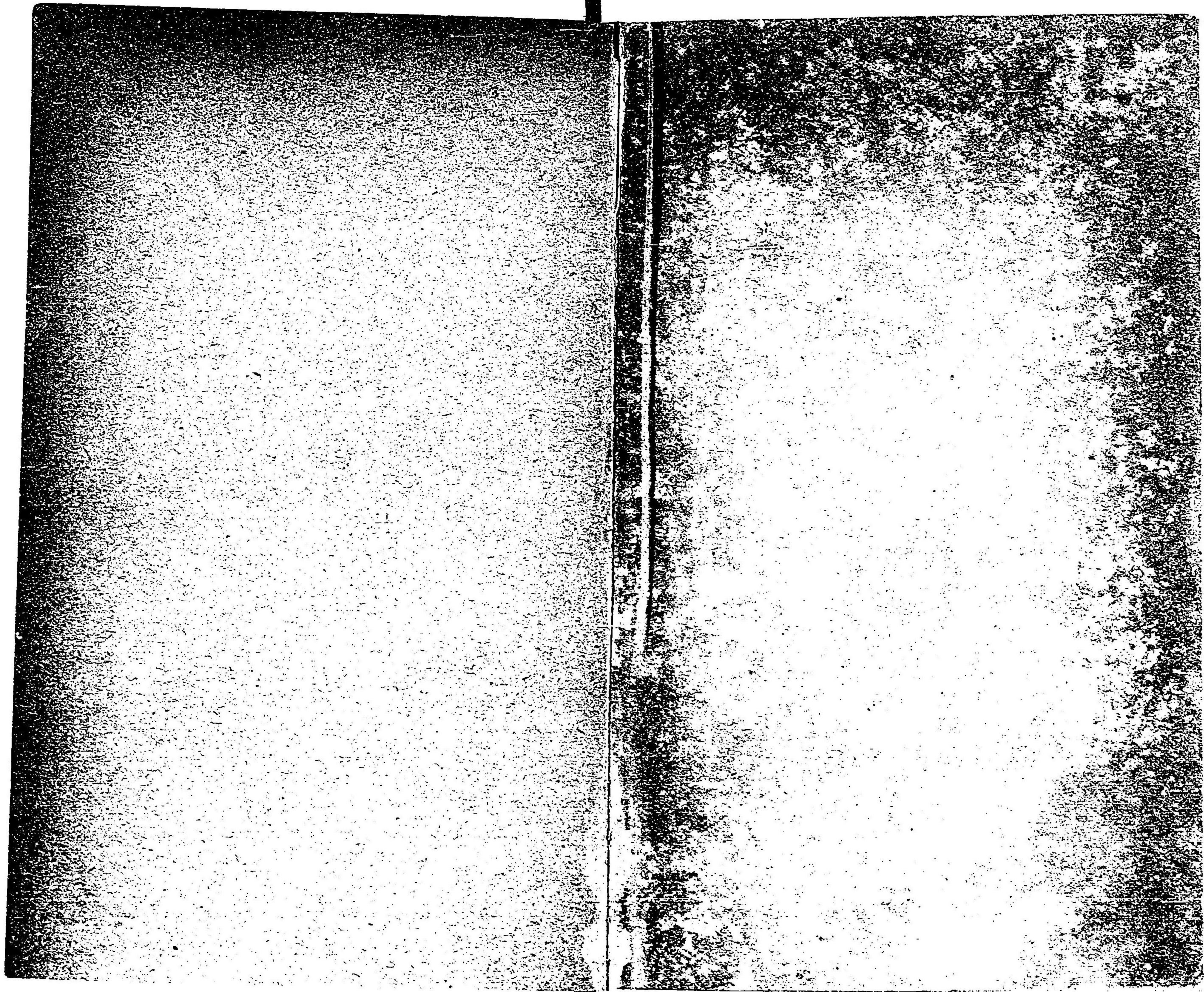
明治法律學校

神田區南甲賀

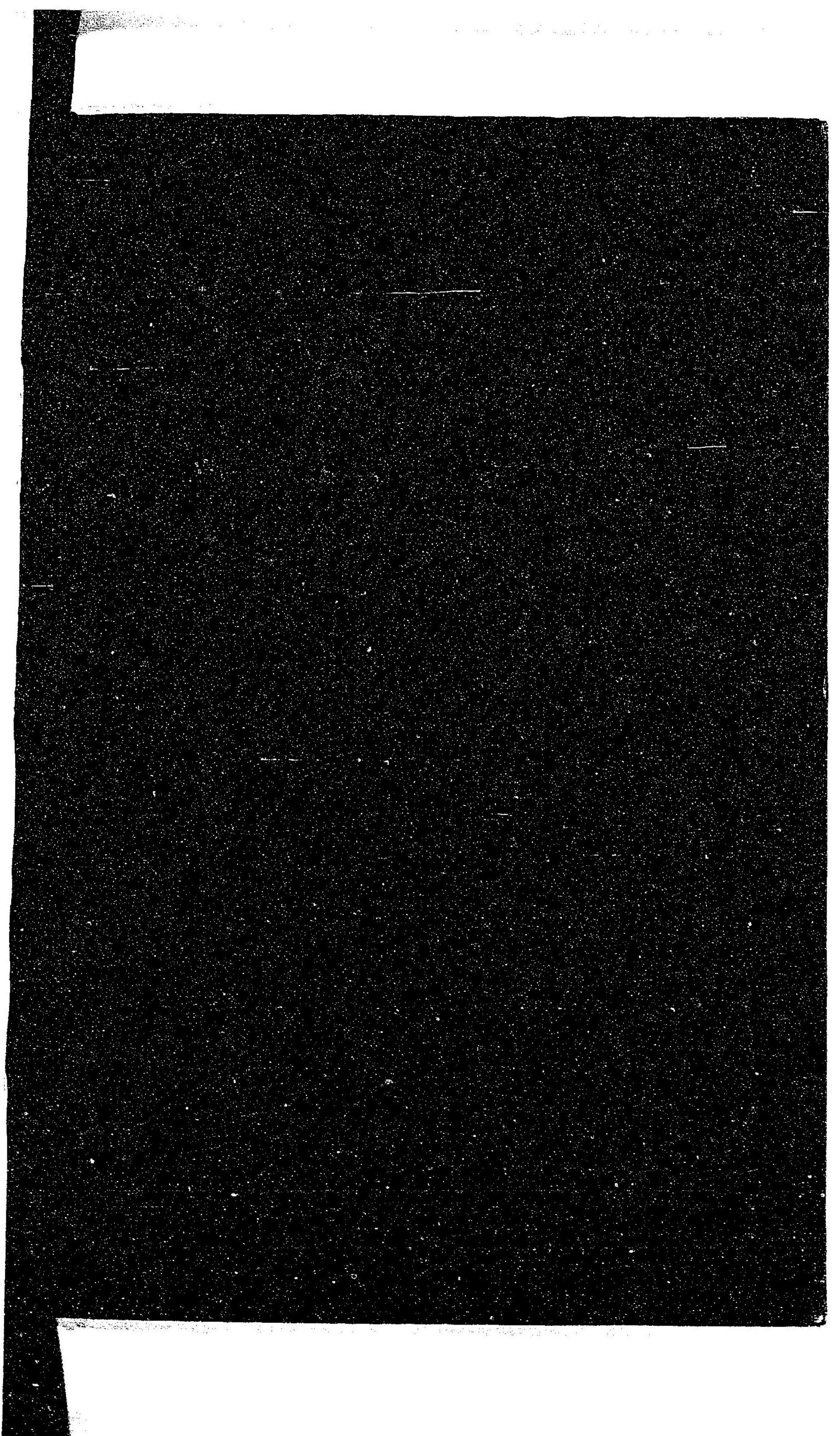
發兌

明法堂

神田區裏神保



|    |
|----|
| 21 |
| 2  |
| 5  |



|    |
|----|
| 21 |
| 5  |



